

赤十字国際ニュース

2020 年 第 9 号 2020 年 3 月 4 日
(通 巻 第 1366 号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-6679-0785

E-mail: kokusai@jrc.or.jp <http://www.jrc.or.jp/>

■救急医療を一步前へーパキスタンにおける挑戦ー

赤十字国際ニュースでは、赤十字国際委員会（ICRC）を通じた日本赤十字社の医療支援として、これまで[南スーダン](#)や[ナイジェリア](#)の様子をお伝えしてきましたが、今回はパキスタンからのレポートをお伝えします。2018 年 6 月から約 1 年 8 か月にわたり、パキスタン北部カイバル州のペシャワールで保健医療事業全般のリーダーを務めました吉田千有紀看護師（日本赤十字社和歌山医療センター）から、現地の医療の実態と ICRC の活動をご紹介します。

■ペシャワールに再び

ペシャワールへの派遣は今回で 2 度目です。前回（2011 年）は病棟看護師として、ICRC が独自に運営する外科病院に 8 か月間派遣されました。2012 年に ICRC の外科病院は閉鎖されましたが、ICRC は引き続き、州政府や教育機関との連携を強化し、公立の医療機関を拠点として、暴動による犠牲者の医療支援を継続しました。

特に、救急患者トリアージモデル開発や看護教育カリキュラムの作成と技術支援を通して、一定の成果

を示しました。

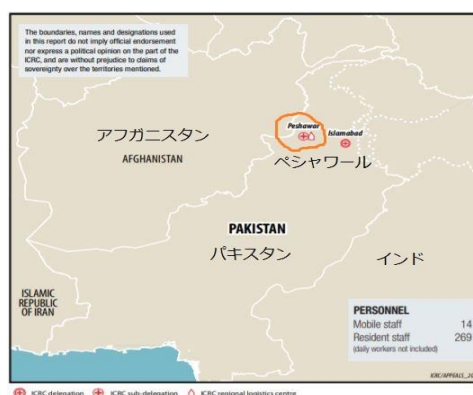
ICRC ペシャワール副代表部は以前と同じ場所にあります、街並みも人々の様子もあまり変わらないように感じました。しかし、幹線道路沿いには、高速バスの専用道路の建設ラッシュで至る所、土埃が立ち込め、工事のため狭まった道路はトラックやマイクロバス、リキシャー（小型のタクシー）で渋滞することもあります。ペシャワール市内に

ある私たちの支援病院に向かうにも、この交通渋滞の中をすり抜けていく必要があります。

■救急医療技術訓練の支援

私たちの支援する病院の一つである Lady Reading Hospital (LRH) はカイバル州で最大規模の公立病院です。2014 年に新しく第三次救命救急センターが開設されました。

LRH の病床総数は 1,860 床あり、救急部門もカイバル州最大の病床数（200 床）とトリアージセンター（50 床）を有します。一般外来部門も併設されており、16 診療科が配置されています。来院患者数は、1 日平均、外来部門で 1 万 5 千人、救急部門で 1,500 人と、日本の医療施設では考えられない患者数の多さです。第三次救急病院に患者が集中する理由は、カイバル州（人口 3,000 万人）を支える保健システムの脆弱さと一次診療レベルにおける医療人材の不足によるものです。



パキスタン北西部にあるペシャワール



パキスタン国旗が描かれたトラック。渋滞も多い。

©ICRC

カイバル州保健局によると、保健医療職の割合は、1.15 人（対 1 千人）であり、特に、資格を有する看護職員数の不足は深刻です。世界保健機構の推奨される割合から換算すると、少なくとも 14 万人の看護職の不足が示唆されていました。地域や国内の情勢不安によって、人材育成に関わる教育機関や教育者の不足が目立ち、支援の必要性があります。ICRC はカイバル大学医学部及び看護学部と提携し、救急医療及び看護にかかる教育カリキュラムの作成と技術訓練の支援を展開しています。

技術訓練を通して、医師や看護師は机上で学んだことの振り返りを行うことができ、実際の現場で技術を活かすことが可能となります。訓練に参加した看護師や医師たちは、「今まで、心肺蘇生の方法は講義等で習ったことがあったが、実際に実技をした経験がなかった。今更聞くことができなかった機械操作の方法など、丁寧に指導者が教えてくれ自信がついた」と振り返ってくれました。また、技術訓練のみならず技術指導できる人材育成にも力を入れており、8 人の救急蘇生にかかるインストラクター、7 人の救急外傷研修指導者、そして、13 人の感染管理及び看護リーダーシップ研修指導者の育成を実施しました。指導者たちは、国内及び国際的に承認された研修への参加を通して、確実に技術を習得しています。



心肺蘇生と AED の使い方を学ぶ医師や看護師。©ICRC

■救急医療を通じた官民連携体制の強化

私が着任した頃、アフガニスタンと国境を接する北西辺境州とカイバル州が合併されました。長いパキスタン軍による武装勢力の掃討作戦の影響による保健施設を含むインフラの破壊に対しての復興支援が急務で、特に医療分野においては統一した救急搬送体制の確立が最も重要な課題です。ICRC はカイバル州保健行政府、カイバル大学との 5 年間の協定を結び、救急医療、搬送体制、教育、安全管理、理学療法分野での支援を協働で実施していくこととなりました。それぞれの分野で問題分析をし、定期的に活動計画の見直しを行っています。カイバル州でのこのような取り組みは連邦政府側にも支持され、合同の救急医療支援ワーキンググループの設置もなされました。ICRC は引き続き、支援団体の一つとしてワーキンググループ活動に関わって行きます。” Let’ s develop Emergency Medicine” を合言葉に、救急搬送体制の充実にこれからも力を入れて行きます。



会議で発表する吉田看護師©ICRC



州政府関係者と保健分野の課題について協議を実施。©ICRC

★日赤のさまざまな情報を配信中です！公式アカウントをぜひご登録ください★
Facebook:日本赤十字社